

領域を共有するリノベーション



○家具と仕切りによる生活の場のマトリクス表

家具と仕切りによる生活の場のマトリクス		仕切りの役割を担う建築						仕切りの組み合わせ													
これまでの住宅は、ある部屋に家具をおくことでその室が定義される。しかし、この提案では、仕切りと仕切りの余白を家具が埋めることで室ができていく。例えば、仕切りのすき間にベッドをおくことで頭側をプライベートな空間に足側をコマンの空間として使うことができる。家具の種類(縦軸)と仕切り方(横軸)の組み合わせから生活の場面が読み出される。		柱	壁	作り付け家具	収納	吹き抜け	階段	壁	作り付け家具	壁	収納	壁	吹き抜け	壁	階段	壁	コア	窓			
仕切りの配置																					
家具の種類	ソファ	ベッド	イス	テーブル	ソファ	ベッド	イス	テーブル	ソファ	ベッド	イス	テーブル	ソファ	ベッド	イス	テーブル	ソファ	ベッド	イス	テーブル	
方向性	強	弱	強	弱	強	弱	強	弱	強	弱	強	弱	強	弱	強	弱	強	弱	強	弱	
説明	部屋の角にソファは斜めに置き、正面への視線の向きが多くなる。横方向にも視線のやりとりができ、ソファの背面部ともゆるやかにつながる。余白にソファを置くことで、動線は阻まれながらも、背面部ともゆるやかにつながる関係が生まれる。	部屋の角に置くベッドは一方からのベッドに向かう動きが強い。3方向からの人の動きが起る。境界線は感じながらも、より存在を感じることのできる空間へ。	部屋の角に置くイスは角に向かってくる動きと正面への視線の向きが多くなる。3方向からのアプローチと境界の内側にいながら、外を意図させる。この余白に置かれたイスは、2つの室をつなぐ前後、左右に向けたりして行く。	テーブルは、視線を壁に向けてすることでプライベート性を高め、静かな環境で勉強や読書といった行動をしやすくしている。テーブルは、3方向からのアプローチと視線の前後、左右に向けたりして行く。	ソファを置くことで動線を前後に分け、視線は合わせつつ互いの存在を感じられる。ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。	ソファを介してそれぞれの室がゆるやかにつながり、前方はプライベートな室、後方はプライベートな室となる。柱のスパインに収まるソファはプライベートな領域を規定でき、境界を飛び越えるソファは、よりバリエーションを使うことができる。

○想定するライフスタイル
●コンセプト
空き家が増えつつある高蔵寺ニュータウンにおいて、移住促進の為のゲストハウスを提案する。住まう人同士の間に程よい距離感が生まれるこの家で、様々な交流を通してこの街の暮らしを体験することができる。こうして生まれた人と人との繋がりが、この街の魅力となり、このゲストハウスによる移住支援の輪が広がっていく。

●利用用途
移住支援のためのゲストハウス
数週間の滞在を想定しており、キッチンや風呂トイレはオーナーと共有する

●想定する居住者
ゲストハウスの管理人、オーナー 1人 高齢者
ゲストハウスの宿泊客 移住希望者 2-3人

○改修費と概算内訳

種別	名称	単位	金額 [千円]
直接収受費	1 仮設	一式	200
	2 外装	一式	300
	3 外装建具	一式	200
	4 玄関	一式	100
	5 ドマ	一式	400
	6 洗面	一式	300
	7 トイレ	一式	300
	8 浴室	一式	600
	9 階段	一式	200
	10 障壁	一式	100
	11 個人スペース	一式	300
	12 共用スペース	一式	200
	13 工費	一式	1,050
間接収受費	14 準備費、清掃費、動力水費、安全費等	一式	400
	15 現場管理費、一般雑費等	一式	400
合計			4,000

○個人の領域形成
身辺的世界の構築
身体の周囲を個人が所有するモノで纏う事で人がいなくても他人を排除できる→場の占有
壁で空間を仕切るのではなく、モノで仕切る事で繋がりのある空間にすることが出来る。

自分の空間を自らのモノ(所有物)で纏う 人がいなくても個人の領域が形成される

○設計の手法
他人同士が同じ空間に住まう
その空間の中に自分の生活の場面を作る
その設計手法として、自分のモノを空間の中に置き、自らの領域を形成していくことをコンセプトとし、提案する。
個人の生活の場面を構成する為の要素を家具や壁の作り方で提案し、ワンルームのような空間にながらもそれぞれの居住者のプライベートな領域が自然に形成されるような居住空間としている。
ゲストハウスという他人同士が住まう空間にも人と人との繋がりが生まれ、仕切られつつも繋がる空間とした。

<具体的な手法>
1. 壁を消していく
部屋を構成する壁の一部を取り除いて、部屋を連続させる。フリープランになった所に、必要な家具を配置し、家具で部屋を完成させる。

2. 木材とともに年を経る
部屋ごとに桜や白樺といった同じ材料で、仕上げ材と家具を作る。
年が経つにつれ、部屋の色が同じように退色し、雰囲気を作る。

3. 家具の配置
部屋と部屋の間に置いたり、階段に沿って置いてみる。家具の配置によって、今までにない家具の使い方ができるようになる。

自分のプライベートな領域が自然に形成されているような空間構成

○バリアフリーについて
既存住宅のオモテ側の床レベルを下げ、ドマ空間とする。外部空間と内部空間の段差を減らすと共に、来訪者や住居内で生活する人同士の交流を促進する。さらに、オモテとウラの部屋区分となる段差は、椅子の高さ程度とし、縁側空間のような利用や、靴の履き替えのしやすさに寄与する。

●階層の話
1階は、ゲストハウスのオーナーの寝室と共有キッチン、交流スペースを配置。これらの室は段差や家具など暖昧な素材により、仕切られつつも連続している。この住居で生活する人々と地域の人々が交流できる空間となる。2階は、この住居で生活する人々同士が交流できる空間となる。オーナーと宿泊者の間には、心地よい距離感と安心感が生まれる。

住居 1階：オーナー(寝室)、共有スペース(キッチン)、宿泊者A/B/C、ドマ(共用リビング・共用ダイニング)
地域 2階：個人スペース、共有リビング等、共有浴室

